《様式1》

【対象事業活動の実績に関する評価】

令和2年度　事業経営評価

団体名	（公財）大阪国際平和センター	所管所属名	教育委員会事務局

中期目標

⑴ 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容

特定の歴史観や考え方に偏らず中立的(中立性の確保)に、事業を実施していくこととともに、「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような展示を行い、もって大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育むこと。

⑵ 中期目標期間

令和２年４月１日から令和７年３月３１日までの５年間

⑶ 中期目標の期間終了時において、⑴の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態

中期目標期間、大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に、「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような展示を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会が提供されている状態。

当該事業年度の評価

外郭団体の自己評価

当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた**団体**の総合的な評価

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により館の運営が大きく左右された年度となった。５月に校外学習の自粛方針が示された市立小中学校の来館は、秋には一定程度回復したものの、96校（前年同期間（4～９月）：257校）にとどまり、また、夏以降回復基調にあった入館者総数も、冬の感染拡大とともに再び落ち込むこととなった。このような状況下においても、戦後75年にふさわしい企画事業等を実施するとともに、施設の快適性や資料館機能の強化のための取り組みを行った。また、前年度に引き続き、教員等の平和・人権研修や公共的団体のセミナー開催による講堂、会議室の有効活用を図った。様々な取り組みにより概ね年度目標は達成できたものと評価している。

最終目標達成見込み	**最終目標達成**に向けた課題及び課題解消に向けた**次年度以降**の取組について
ア ア：順調 イ：遅れあり ウ：計画の見直し必要	令和3年度以降どの程度新型コロナウィルス感染症の影響が残るのか現時点では想定し難いが、財団の自主努力で達成可能な学校関係のPRや来館した大阪市立の小学校に対するアンケート等により把握した平和学習到達度（学校満足度）向上のための取り組み等を行っていく。

市の評価

当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた**本市**の総合的な評価

令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた１年で、休館や事業の中止など館の活動に大きな制約があった。そのような状況下においても、工夫を凝らして取り組みを進めることで、すべての年度目標について達成し、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会の提供に、大きく貢献したことは評価できる。

助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理に関する条例第７条第５項】（※必要な場合のみ）

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－１　（※分野ごとの評価）

中期計画

団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

大阪市小学校長会や中学校長会等において、平和学習の場としてピースおおさかの利用を呼びかけるとともに、来館率の低い区の小学校長会などに働きかけを行っていくことにより、小中学校の来館率を高めていく。

指標1	大阪市立小学校全校に対する来館率									
目標値1	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標	進捗率	R6目標(最終目標)	進捗率
	18%	21.2%	53%	62.4%	85%	100%	85%	100%	85%	100%

指標2	大阪市立中学校全校に対する来館率									
目標値2	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標	進捗率	R6目標(最終目標)	進捗率
	4%	16.0%	15%	60.0%	25%	100%	25%	100%	25%	100%

年度計画達成状況

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
最も来館者数の多い区分である小中学生の来館をさらに促進するため、小中学校校長会などの学校関係者の会議等においてPRを行い、来館率を向上させる。 また、教員等を対象に、当館の講堂等を利用した研修会等を誘致することにより、小中学校の来館につなげていく。	６月の大阪府中学校長会・大阪市立中学校長会、７月の大阪府小学校長会・大阪市立小学校長会など合計１９回学校関係者に「ピースおおさか」のＰＲを行った。 また、将来的な小中学校の来館につながる延べ5日間の教員初任者研修等を誘致した。加えて、夏休み期間中には、大阪市小学校教育研究会図画工作部と協力し、児童絵画・版画展を実施した。

目標1の達成状況

実績値	前々年実績（1～12月）	前年実績（1～12月）	R2年実績（4～12月）	目標達成率	達成状況
	81.7%	86.9%	28.5%	158%	a (i)

中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ｉ)取組は予定どおり実施　（ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ｉ)取組は予定どおり実施　（ii)取組を予定どおり実施しなかった

目標2の達成状況

実績値	前々年実績（1～12月）	前年実績（1～12月）	R2年実績（4～12月）	目標達成率	達成状況
	23.1%	26.2%	10.8%	270%	a (i)

中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ｉ)取組は予定どおり実施　（ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ｉ)取組は予定どおり実施　（ii)取組を予定どおり実施しなかった

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	a (i)	a：目標達成　（ｉ)取組は予定どおり進捗　（ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成　（ｉ)取組は予定どおり進捗　（ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成　（ｉ)取組は予定どおり進捗　（ii)取組は予定どおり進捗していない

当該事業年度の達成状況について

当初校外学習の自粛方針が示されていたため、8月までの来館はなかったものの、9月以降は12月上旬に警戒信号が出されるまで前年度の概ね半数程度の来館があり、大阪市立小学校の来館校数は82校、来館率は28.5%、大阪市立中学校の来館校数は14校、来館率は10.8%となった。当館予約時の人数制限や学校のカリュキュラムの調整が難しい中にあっても、校外学習の自粛の制約がない時期には積極的な来館があり、目標を超える来館率を達成することができた。

最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について

令和3年度以降どの程度新型コロナウィルス感染症の影響が残っているか現時点では想定し難いが、今年度来館を取りやめた学校も次年度以降に来館してもらえるよう、引き続きＰＲの場を積極的に活用し来館率の向上を図っていく。

市の審査

指標の達成状況	a (i)
a：目標達成　(ⅰ)取組は予定どおり進捗　(ⅱ)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成　(ⅰ)取組は予定どおり進捗　(ⅱ)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成　(ⅰ)取組は予定どおり進捗　(ⅱ)取組は予定どおり進捗していない	
「様式1：中期目標⑶」に対する取組の有効性	ア　ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す

「外郭団体の自己評価」に対する審査結果

新型コロナウイルス感染症の影響が大きいが、財団は小中学校への来館促進のためのPRを積極的に行うこと。各種研修会や展覧会の誘致を図ることにより、目標を達成することができたため、自己評価は妥当と考える。

「中期目標」達成の視点からみた審査結果

新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中、中期目標で設定した大阪市立小学校全校に対する来館率１８％以上、大阪市立中学校全校に対する来館率４％以上を達成した。また、より高い集客力がある「大阪市小学校児童絵画・版画展」の実施などを通して、大阪市内の小中学生の平和教育の推進に貢献した。さらに来館率を向上させ、次年度も目標を達成するべくPRを図られたい。

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－２　（※分野ごとの評価）

中期計画

団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

来館した大阪市立の小学校に対してアンケート調査を実施し、「ピースおおさかが平和学習の場として役立ったのか」という問いに対して、４段階中最上位の「役立った」と回答した割合８５％を計画期間中維持するように努める。

来館した大阪市立小学校の平和学習到達度

目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標	進捗率	R6目標(最終目標)	進捗率
	85%	－	85%	－	85%	－	85%	－	85%	－

年度計画達成状況

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容

「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」常設展示や特別展示の開催、定時映画の鑑賞、ワークシートの提供等を通じて、平和学習としての効果・満足度を高める。また、展示施設の充実、施設の快適性の確保、博物館・資料館機能の充実を図る。

【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容

常設展示や特別展示の見学、定時映画の鑑賞、ワークシートの提供等を通じて、平和学習としての効果・満足度を高めるとともに、ニーズの多い午前中に定時映画を増やすなど要望のあった事項の改善に努めた。また、館内の大阪空襲体験画の追加、館内Wi-Fiの設置などの設備改修、ＳＮＳの開設など施設の快適性・利便性の向上にも努めた。

目標の達成状況

実績値	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
	—	—	88.9%	104.6%	a (i)

中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ｉ）取組は予定どおり実施　（ii）取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ｉ）取組は予定どおり実施　（ii）取組を予定どおり実施しなかった

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	a (i)	a：目標達成　（ｉ）取組は予定どおり進捗　（ii）取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成　（ｉ）取組は予定どおり進捗　（ii）取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成　（ｉ）取組は予定どおり進捗　（ii）取組は予定どおり進捗していない

当該事業年度の達成状況について

新型コロナウィルス感染拡大防止対策による様々な制約の中での見学であったが、アンケートで回答のあった市立小学校の来館校中、88.9％の学校から「平和学習の場として役立った」との回答があった。リニューアルのコンセプトである「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような展示の見やすさや多くの学校が鑑賞する定時映画等が評価された結果であると認識している。

最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について

令和3年度以降、予約や定時映画の人数制限をどの程度行うかなど不確定要素がある中、アンケートにより学校のニーズを把握し、対応可能な事項は改善を図り、平和学習の効果や満足度を高めていく。

市の審査

指標の達成状況	a (i)

a：目標達成　（ｉ）取組は予定どおり進捗　（ii）取組は予定どおり進捗していない
b：目標全部未達成　（ｉ）取組は予定どおり進捗　（ii）取組は予定どおり進捗していない
c：目標一部未達成　（ｉ）取組は予定どおり進捗　（ii）取組は予定どおり進捗していない

「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す

「外郭団体の自己評価」に対する審査結果

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による様々な制約があったが、展示施設の充実や施設の快適性を確保することにより、目標を達成することができたため、自己評価は妥当と考える。

「中期目標」達成の視点からみた審査結果

新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中、感染防止対策を徹底しながら来館促進を図り様々な改善を加えることで、中期目標期間中の平和学習到達度として設定した８５％以上を達成した。ピースおおさかが大阪市内の小学生の平和学習の場として役立ち、「戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会の提供」に貢献した。次年度も継続して目標達成できるようニーズの把握と改善に努められたい。

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－３　（※分野ごとの評価）

中期計画

団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

ピースおおさかの企画事業の参加者に対しアンケート調査を実施し、「今回参加していかがでしたか」という問いに対し、５段階中上位２つの「とてもよかった」「よかった」と回答した割合７５％を計画期間中維持するよう努めていく。

指標	来館者満足度									
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標	進捗率	R6目標(最終目標)	進捗率
	75%	－	75%	－	75%	－	75%	－	75%	－

年度計画達成状況

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に伝えていくため、戦後75年にふさわしい魅力ある平和祈念事業を実施し、その情報発信に努める。	戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に伝えていくため、戦後75年にふさわしい魅力ある平和祈念事業を３回実施し、その情報発信に努めた。

目標の達成状況

実績値	前々年実績（1～12月）	前年実績（1～12月）	R2年実績（4～12月）	目標達成率	達成状況
	89.1%	78.1%	81.2%	108.3%	a (i)

中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施　（ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ⅰ)取組は予定どおり実施　（ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	a (i)	a：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり進捗　（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成　（ⅰ)取組は予定どおり進捗　（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成　（ⅰ)取組は予定どおり進捗　（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない

当該事業年度の達成状況について

新型コロナウィルス感染拡大防止対策として人数を制限して、戦後75年にふさわしい３回の平和祈念事業を実施（８月2回、９月１回、12月は中止）し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを実感するなど、アンケートでは「とてもよかった」「よかった」と回答した人の割合が81.2％と概ね高評価を受けた。

最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について

平和祈念事業の開催経費は、寄附金（平和寄金）を財源としているが、令和２年度は来館者数の減少等で寄附金が減少している。令和3年度は、ピースおおさか開館30周年にあたる年度であり、来館者数の回復を目指しつつ、寄附金を有効活用しながら、なお一層魅力ある平和祈念事業の開催に努め、平和の情報発信を行っていく。

市の審査

指標の達成状況	a (i)	a：目標達成　（ⅰ)取組は予定どおり進捗　（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成　（ⅰ)取組は予定どおり進捗　（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成　（ⅰ)取組は予定どおり進捗　（ⅱ)取組は予定どおり進捗していない
「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す

「外郭団体の自己評価」に対する審査結果

新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業が中止など、予定通りの事業が実施できなかったが、魅力ある事業を実施することにより、目標を達成することができたため、自己評価は妥当と考える。

「中期目標」達成の視点からみた審査結果

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる事業もあったが、中期目標期間中の来館者満足度が目標として設定した７５％以上を達成し、市民の平和学習を推進することができた。次年度は開館30周年でもあり、館の様々な事業との相乗効果もねらいながら、来館者の満足度を高めることができるよう事業展開を図られたい。